

令和5年度 第1回 「知事と語る やまなしづくり」結果概要

対話テーマ:山梨県の子育ての近未来について

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。

今回は、幼稚園や保育園などの代表者の皆様と現状や課題について意見交換を行いました。

【日時場所】 令和5年9月19日(火) 午後3時から 県庁防災新館4階401・402会議室

【対話相手】 8名

(主な意見等)

- 幼児期に自己肯定感を育むことは、生涯教育の中でも最重要課題。子どもの主体性・自主性を引き出すためには、きめ細やかな教師の対応が必要だが、教員配置が足りない。
- 安心して子育てをする上で、子どもを託せる施設の選択肢が多いということは、これからの多様な社会では必須。それが人口減少突破の糸口になるのではないか。
- 子どもがやりたいことを大人が邪魔しなければ、子どもたちは生き生きと過ごすことができる。
- 保育教育の環境が、移住を決断する大きな理由の一つになっている。質の高い保育教育を実現させることが、人口増加を図る一歩になり得る。
- 子どもを産みたい人が産めるようにするためには、やはり保育料の負担をどうにかすることが大事。
- 保育園や小学校の環境については改善が進んでいると思うが、放課後児童クラブが置き去りになっている状況がある。
- 障害を持っている子ども達の受け皿がまだまだ足りない。特に東部富士五湖地域には、児童発達支援センターがないという状況。
- 困り事がある家庭しかサービスを受けられないのが現状で、市町村が認めるものだけが利用できるというのはもう古い。
- 障害児教育について、足りないところを伸ばすのではなく、それぞれの特性を伸ばしていく、そういった教育ができていないと他県から呼び込める要素になってくる。
- 地域に昔からある社会福祉法人や学校法人が、地域に根ざした教育を展開すること、県が様々な形の教育があることを発信していくことが大事。
- 学童保育で毎日学校の給食と同じように食べることができれば、かなりの社会の底上げになるのではないか。

(知事(県)の主な発言)

- 保育料については、完全無償化をしたいくらいだが限界もあるので、どういう工夫ができるか引き続き勉強させていただきたい。
- 障害を持つ子の受け入れは施設の負担にもなるが、そこに向き合っている施設のサポートを考えたい。そのサポートを通じて、御家庭をサポートするということだと思う。
- 学童保育について、給食の話はとても重要であると思う。これはひとつのテーマとして考えていきたいと思う。

